

古今伝授の舞台へ —勝龍寺城天主と開田御茶屋—

はじめに *2010年【没後400年】 幽齋研究の広がり

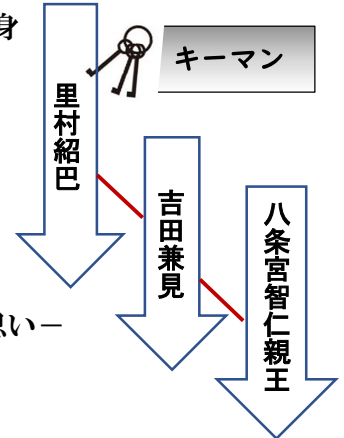
二つの古今伝授を知る意義

1 三条西実澄(実枝)から細川(長岡)藤孝への古今伝授

- (1) 元亀2年 大原野千句から勝龍寺城普請へ —紹巴・三条西実澄—
- (2) 元亀3年 岐路のなかの古今伝授開始→元亀4年に長岡藤孝へ転身
- (3) 天正2年 多聞山城での集中講釈→勝龍寺城天主で切紙伝授
- (4) 天正4年 古今伝授証明状

2 細川幽齋から八条宮智仁親王への古今伝授

- (1) 智仁親王への祇候と幽齋の思い —吉田兼見・前田玄以—
- (2) 古今伝授の開始と中断 —覚悟の古今伝授証明状—
- (3) 古今伝授の再開と修了 —「古今伝授座敷模様」に込めた幽齋の思い—
- (4) 智仁親王から後水尾天皇へ



3 八条宮屋敷学問所から開田御茶屋の造営へ

- (1) 勝龍寺城跡を望む御茶屋(別業) 2代八条宮智忠親王(→常磐井宮→京極宮→桂宮)
- (2) 霊元天皇が大池の畔に改修・再整備 開田天満宮から長岡天満宮へ
- (3) 幽齋250回忌に「長岡大明神」として祀る
- (4) 明治維新による流転と再生 *村社長岡天満宮 *桂宮邸の長岡大明神 *水前寺公園に移築(大正元年)

おわりに *2021年【勝龍寺城築城450年】 幽齋の人物像

文化の天下人・細川幽齋

① 戦国武将×学芸・古典=人間・細川幽齋の真髓を理解

- *「平安時代の文学は定家に入ってまとめられ、次へと伝わり、中世の文学は幽齋に入ってまとめられ、次へと伝わった」(国文学者・中村幸彦)
- *「私にとって幽齋はローマ」(国文学者・鶴崎裕雄)

② 勝龍寺城跡×開田御茶屋跡/長岡天満宮=温故知新 古今伝授をとおした文化のつながり

—主要参考文献—

- ・土田将雄『続細川幽齋の研究』笠間叢書270 1994年
- ・『細川家の至宝 珠玉の永青文庫コレクション』2010年 ・『細川幽齋 戦塵の中の学芸』笠間書院 2010年
- ・改訂新版『兼見卿記』第1～第7 史料纂集古記録編 八木書店 2014～2019年
- ・『古今伝授資料』一・二 宮内庁書陵部図書寮叢刊 2017・2019年

(元長岡天満宮境内・開田御茶屋)
熊本水前寺成趣園 古今伝授の間



付書院の花頭窓